

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の「社会と調和し自立して生きる力」を育み、地域から信頼される学校

布施北高校は生徒に以下の力をつけるために、多様な学びを実践し、地元保・幼・小・中・大学、企業・施設など関係諸機関と連携を深め、地域の組織・人材を活用して大阪府でもっとも進んだキャリア教育を行うことで、総合的な「学校力」を高めて、生徒一人ひとりが「入って良かった」と思える学校づくりを実現します。

- ① 自己を高める力・・・確かな学力（読み・書き・計算・表現力）を育み、ねばり強さと未来に希望を持つ志を養います。
- ② 人とつながる力・・・人とつながる喜びを知り、周囲と協力し合う力を養います。
- ③ 社会に貢献する力・・・地域・社会に貢献しようとする意欲と実行力を養います。

2 中期的目標

1 学習活動の充実

- ① 普通科・デュアル総合学科それぞれの特長を踏まえ、「わかる授業づくり」「魅力ある授業づくり」に向けて、各教員が授業力向上に取り組む。
- ② 普通科における「基礎学」をはじめとする学習活動の充実、デュアル総合学科における実習や教科設定科目の学習内容それぞれの充実を図る。

* 学校教育自己診断における生徒の授業満足度（平成26年度44.4%、平成27年度49.7%）を平成28年度52%以上にする。

* 不登校率の減少（平成26年度26.4%→平成27年度22.3%→平成28年度21%以下に）

* 中途退学率の減少（平成25年度15.9%→平成26年度13.9%→平成27年度9.5%→平成28年度10%以下に）

2 人権教育を基盤とした魅力ある学校づくり

- ① 生徒一人ひとりを大切に生徒指導を通じて、生徒の規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立を図り、中途退学及び原級留置を防止する。
- ② 保護者との連携・協力体制を強め、担任・学年団と生徒指導部が連帯して、計画的・組織的に面談、家庭訪問をはじめ日々の連絡強化に努める。
- ③ 各中学校との連携を密にし、個々の生徒指導に活かす。
- ④ 教育相談体制を充実させるとともに、支援が必要な生徒の状況を共有し、各分掌・学年と連携してケース会議を開くなど、積極的に生徒支援を行う。
- ⑤ 生徒会活動や特別活動、学校行事を通じて仲間づくりや生徒の自己有用感を高め、学校・学年・学級への帰属意識を醸成する。
- ⑥ 全教職員が同和教育をはじめとした人権教育の理念を学び、尊重して共通理解を深め、すべての教育活動の中に人権教育を位置づけ、教育実践への反映に努めることにより人権教育を推進する。
- ⑦ 多数の中国等帰国生徒や外国人生徒が在籍する学校として、学習の保障と進路保障に向けての支援を行うとともに、多文化共生教育を推進し、「ともに学ぶ」学校づくりを進める。

3 キャリア教育・進路指導の充実

- ① 三年間を見通したキャリア教育（勤労観・職業観を養い、将来の自分の生き方について展望を持つための働きかけ）を積極的に進める。
- ② 学ぶこと、働くこと、自分らしく生きることの大切さを理解し、自己肯定感や勤労観・職業観を育むことができるよう、発達段階に応じた系統的・継続的なキャリア教育・進路指導を実践する。
- ③ インターンシップやデュアル実習を通して地域を中心とした事業所・施設・教育機関等との連携を強化し、ともに次の世代を育てることにつながりあい、学び合い、助け合いながら組織としての成長を図る。

* 平成27年度進路未定率22%を20%以下にする。

4 学校改編に向けた取組みと積極的な情報発信

- ① エンパワメントスクールへの改編に向けて、教職員が一丸となって取り組む。
- ② デュアルシステムをはじめとした学校のさまざまな取組みや情報を保護者、中学校、地域、府民に向けて発信し、学校イメージの向上を図るとともに、改編後の学校の教育内容や学校の魅力等について積極的に情報発信する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【生徒】・回答数が大幅に増加した（522名←476名）。4点満点に換算したポイント（P）の数値で全項目総平均が下がっている。（2.57P←2.71P）</p> <p>・評価の高い設問は「20 授業などで、コンピュータやプロジェクトを活用している」（3.00P）「21 この学校にはデュアルシステムをはじめ、他の学校にない特色がある」（2.87P）で、低い設問は「15 学校はクラブ活動の活性化のために熱心に取り組んでいる」（2.25P）「23 授業や部活動などで、保護者や地域の人とかかわる機会がある」（2.26P）であった。</p> <p>・減少が大きい設問は「12 ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」（-0.19）「15 学校はクラブ活動の活性化のために熱心に取り組んでいる」（-0.19）であった。「12」ではキャリア教育としての取組みに変化はないので、生徒への発信に工夫が必要と考えられる。また「15」では、クラブ活動の参加率の減少とも関連してさらなる工夫が必要である。</p> <p>【保護者】・回答数はやや増加した（167名←162名）。4点満点換算ポイント（P）の数値で全項目総平均が下がっている。（2.85P←2.93P）</p> <p>・評価の高い設問は「18 デュアルシステムの実習などは子どもにとってよい経験になると思う」（3.37P）「4 文化祭・体育祭・宿泊行事（修学旅行）などの学校行事に、子どもは積極的に参加している」（3.30P）で、低い設問は「11 布施北高校のホームページを見ることがある。」（2.06P）「10 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」（2.30P）であった。</p> <p>・評価上昇の設問は「9 子どもの心身の健康について、学校は相談しやすい雰囲気である」（2.93P）、「学校は、自分の生き方を考え豊かな心を持った子どもを育てようとしている」（2.79P）のみであった。</p> <p>・減少が大きい設問は「17 学校は、外国にルーツのある生徒やその保護者に対して十分に支援している。」（-0.25）「1 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」（-0.20）であった。「17」については教員配置の変化が影響している。「1」では、生徒回答で好評価上位3番目に「自分のクラスは楽しい」があり、「学校に行くのが楽しい」もポイントは昨年とほぼ変わらないので、保護者の捉え方の分析が必要となる。</p> <p>【教職員】・回答数はほぼ変化ない（69名←68名）。4点満点換算P総平均は下がっている。（2.76P←2.85P）</p> <p>・「デュアルシステム、地域連携」「問題行動への組織対応」の設問の評価が高く、「校内人事、分掌分担」「指導内容の他教科と話し合い」の設問の評価が低い。</p> <p>・分掌での仕事に関して、引き継ぎや偏りなどに課題があると思われる。また、普段から教科内での話し合いはなされているが、教科を越えて指導法や指導内容を検討する機会に工夫が必要と思われる。</p>	<p>第1回（6/18）</p> <p>1 報告〇H28年度学校経営計画について ○エンパワメントスクールについて</p> <p>2 協議</p> <p>・エンパワメントスクール改編によりどのような学校になるのか、積極的な情報発信をお願いしたい。</p> <p>・エンパワメントスクールへ改編しても、デュアルの良さを伸ばした形、さらなる発展を望む。</p> <p>3 提言</p> <p>・エンパワメントスクールを良い機会だと捉え、伝統であるデュアルシステムの良さを伸ばし、さらに発展させてほしい。「布施北版エンパワメントスクール」を進めてほしい。</p> <p>・地域や中学校との連携をさらに進めてほしい。</p> <p>第2回（11/19）</p> <p>1 デュアル発表会について</p> <p>2 進捗状況報告（部活動加入状況、行事参加・満足度、デュアル出席状況、インターンシップ状況、欠席・遅刻・中退状況、進路状況、学校説明会等、中学校訪問状況など）</p> <p>3 意見等</p> <p><デュアル発表会について>・去年より成長していた。「ほんまもん」に接することが大切だ。生徒たちは体験通して知識や学びを自分のものになっている。これからも続けてほしい。</p> <p>・彼らには一生の思い出になる。彼らが「大舞台でやったのだ」という思い出を残せるような催しになって欲しい。もっと中学生に来てほしいので、呼び込みに力を入れていこう。</p> <p>・就職にもつながると自信をもって言ってくれて嬉しかった。</p> <p>・子どもが抱えて来た困難をどう乗り越えたか、生徒自身が語るような発表を来年は期待したい。</p> <p>・先生が相当手助けしてやっている。もっと生徒主体でやらせてみた方が、生徒たちは成長する。</p> <p><進捗状況について>・加入率が横ばいなのは衝撃だ。短い学生生活の間に、アルバイトのために部活動などができないのは、教育のあり方として考えなければならないし、もっと広く実態を知ってもらわなければならない。大学と異なり高校での学びは人生の基礎となる大事な学びだ。</p> <p>第3回（3月4日）</p> <p>1 報告〇H28年度学校経営計画と学校評価について</p> <p>・進路未定者の増加はなぜか。何か手立てを考えた方がよい。何回も場を与える機会が必要。</p> <p>・デュアルの実習先は一つの人脈であり財産である。学生同士の体験の話し合いなど横のつながりや卒業生の活用をしてネットワークづくりをしていくべきではないか。</p> <p>・クラブもアルバイトもやっていない生徒がいる。私自身も学生にクラブは大事とっている。学校としてクラブ加入の働きかけが必要。</p> <p>・デュアル実習について、製造についての認識を変えていく取組みをする必要があるのではないかと。製造の実習がどんな実習を考えているのか、というところまで紹介すると、満足度が上がるのではないかと。具体化して、深めて、生徒に提供してほしい。</p> <p>・学習指導要領が変わる。事業を整理して、ここを重点的にやるなど校長のリーダーシップを発揮してほしい。中高の連携など早めに準備していった方がよい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習活動の充実	<p>(1) 生徒が集中して学習に取り組める学習環境の整備</p> <p>(2) 生徒が「わかった」「楽しい」と思う主体的な学びを成立させる教職員の授業力の向上</p> <p>(3) デュアル総合学科3年間のカリキュラムの検証と授業内容の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 3学年通じての少人数クラス展開</p> <p>イ 1学年の習熟度別授業(「英語」・「数学」)やTT授業(「基礎学」・「情報」)を通じて「授業定着」「学ぶ姿勢」「学ぶ力」の育成に取り組む。</p> <p>ウ 授業中の「五大規律」を一致して指導し、「授業こそが生徒指導の場面」として落ち着いた授業環境を作る。</p> <p>エ ICT教育内容をさらに充実させる。</p> <p>オ ユニバーサルデザインの視点から生徒が集中し落ち着いて取り組める学習環境整備。</p> <p>(2)</p> <p>ア 参加体験型授業を増やす。</p> <p>イ ICT等を活用した授業の取組みを増やし、コンテンツの共有を図る。</p> <p>ウ ア・イを含め、授業の工夫を教職員が互いに学び合い授業研究できる機会を持つ。</p> <p>(3)</p> <p>ア 2・3年生のスムーズな実習の遂行</p> <p>イ 外部講師によるデュアル教科科目の教育内容の充実</p>	<p>(1) 昨年度比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席者数 10%減 (H27年度 140名) ・中途退学者率 10%以下継続 (H27年度 9.5%) ・生徒学校教育自己診断における授業満足度 52%以上に。(H27年度 49.7%) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自己診断「ICT活用している」80%以上 (H27年度 79%) ・「パッケージ研修支援Ⅱ」を活用した報告会 2回実施 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習出席率 90%以上 (H27年度 88%) 	<p>(1) ア 全学年で少人数クラス展開授業を実施した。イウ 全学年で「五大規律」を全教員で取り組み、特に1年では習熟度別授業なども活用し「授業定着」「学ぶ姿勢」「学ぶ力」の育成に取り組む、学校全体として比較的落ち着いた授業に取り組むことができた。在籍者数が増加しているが</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席者数は減少した。(126名←140名) (○) ・欠席者数が減少した。(延 13,845名←14,169名) (○) ・中途退学者率はほぼ同程度となった。10.0%←9.5% (○) ・授業満足度は低下した。さらなる改善に取り組みたい。肯定的評価 48.5%、2.45ポイント/4点中 (61.3%) (△) ・一方で「自分のクラスは楽しい」は肯定的評価が 63.5%であった。 <p>(2) ・自己診断の数値は下がったが、教員はICT等を活用し視覚的にもわかりやすくなるよう工夫して授業に取り組んだ。(自己診断 75.3%) (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「パッケージ研修支援Ⅱ」を活用した報告会を2回実施した。(○) ・3学期にタブレット活用研修を実施予定 <p>(3) ・増加する実習生徒数に対応するため、新たな実習先の開拓など積極的に事業所等と連携を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習では教員が丁寧に巡回を行い、校外外で外部講師も活用し充実を図った。(特非講師活用延 112名) ・デュアル実習出席率 3年 90%、2年 92% (○)
2 人権教育を基盤とした魅力ある学校づくり	<p>(1) 一人ひとりの生徒をしっかり把握し高校生活に定着させるための生徒指導の充実</p> <p>(2) 生徒を受け止める教育相談の機能充実</p> <p>(3) 生徒の居場所となる魅力ある学校づくり</p> <p>(4) 人権教育の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア 頭髪指導や服装指導、遅刻指導による規範意識の醸成</p> <p>イ 少人数クラス展開し、さらに1年次を複数担任制にすることで、きめ細かな生徒把握・生徒対応を行う。</p> <p>ウ 丁寧な家庭連絡や家庭訪問により保護者との連携を図り、学校行事への参加やPTA活動への参加を呼び掛ける。</p> <p>エ 随時迅速な中高連携と中高連絡会の開催や全教員による中学校訪問を実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒の状況把握に努めるとともに、スクールカウンセラーと協力し、要配慮生徒のケース会議を開くなど、生徒支援を充実させる。</p> <p>(3)</p> <p>ア 部活動や生徒会活動を活発にし、活動状況を校内外に発信する。</p> <p>(4)</p> <p>ア 生徒対象の人権学習を発達段階に応じ系統的・計画的に実施する。</p> <p>イ 人権教育やカウンセリングマインド生徒指導等をテーマとした教職員研修を実施する。</p> <p>ウ 中国等帰国生徒及び外国人生徒のアイデンティティを大切にしつつ、ともに学ぶ教育を推進する。</p>	<p>(1) (2) (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席者数 10%減 ・中途退学者率 10%以下継続 ・欠席延人数 1200名減 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自己診断「悩みや相談に応じてくれる」評価を昨年度 (52%) よりアップ ・支援体制の整備 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動・部活動の活性化と発信 ・部活動加入率を昨年度 (31%) よりアップ <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修の充実 (年間4回以上) 	<p>(1) ア 丁寧な生徒指導を実施し規範意識の向上に努めた。イ 1年複数担任制により、きめ細やかな対応ができた。在籍者数が増加しているが</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席者数は減少した。(126名←140名) (○) ・中途退学者率はほぼ同程度となった。10.0% (○) ・欠席延人数は目標には届かなかったが、324名減となった。(△) ・懲戒件数は16%減少した。 <p>(2) ・スクールカウンセラー(SC)による研修を3回実施し認識を深めるとともに、丁寧な連携・対応に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価 52.6%とやや上昇した。(○) ・配慮を要する生徒のケース会議を5回開き、SCの意見も参考に迅速・丁寧に組織として対応することに努めた。 <p>(3) ・学校説明会時に生徒会生徒から学校状況を発表する機会を作ったり(4回)、頑張っているクラブや活動を毎月の全校集会時に写真等により紹介したりし、積極的に校内外への発信や活躍の場を支援することに努めた。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動を教員が丁寧に指導するなど活動支援に努めたが加入率は低下した。さらに工夫が必要である。(29%) (△) <p>(4) 人権教育やカウンセリングマインド生徒指導等を進めるため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方からの講演並びにフィールドワーク(1回)、SCによる生徒支援やいじめに関する研修を実施した。(3回) ・3学期にSCによる研修を実施した。(○)
3 キャリア教育・進路指導の充実	<p>(1) 3年間を見通した体系的なキャリア教育の取組み</p> <p>(2) 進路指導の取組み</p> <p>(3) 地域等との連携強化</p>	<p>(1)</p> <p>ア 1年時よりキャリア教育の充実のために職業適性検査、インターンシップ、進路説明会、社会人講話や、企業・専門学校・大学など見学や体験の機会を設け、生徒個々人の進路設計への意識を高める。</p> <p>(2)</p> <p>ア 進路決定及び定着のための取組み継続</p> <p>(3)</p> <p>ア デュアル実習連携企業・施設の拡大</p> <p>イ 中小企業家同友会との連携</p> <p>ウ デュアルシステムでの連携企業・施設等の地域交流を促進する。</p>	<p>(1) (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路未定率 20%以下 (H27年度 22.1%) ・就職内定率 90%以上 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規連携協力事業所 30か所以上の確保 (H27年度 150社) 	<p>(1) (2) ・キャリア教育の充実のために、全学年で外部機関と連携して実地の見学、様々な職種等の方の話を聞くなど、体験を通じて考え意識を高める取組みを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業家同友会とも連携して保護者や教員の事業所見学も実施し、保護者にも連携して大学見学も行い理解を進めた。 ・進路決定が昨年より大幅に遅れたが継続的に支援をしていき、昨年度より進路未定率を下げる事ができた。今後さらに丁寧な支援をしていきたい。(18.4%) (○) ・学校幹旋での就職内定率も苦戦し遅れたが、目標には届かないが、現時点では減少している。生徒の準備や意識を高める工夫によって改善をしていきたい。(学校幹旋 93.1%) (○) <p>(3) ・増加する実習参加生徒に対応するため従来からの連携先や新たな事業所等を訪問し、連携を深めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規連携協力事業所 42か所 (○)
4 積極的な情報発信	<p>(1) エンパワメントスクール開校に向けての準備</p> <p>(2) 積極的な情報発信</p>	<p>(1)</p> <p>ア 準備PT及びWGの設置</p> <p>イ 教育方針の浸透を図る。</p> <p>ウ 教育内容の精選</p> <p>(2)</p> <p>ア 中学校及び中学生、保護者向けに改編後の学校の教育内容と魅力について発信する。</p> <p>イ ホームページの内容充実</p> <p>ウ 学校ニュース作成等による情報発信</p> <p>エ 在校生保護者向けメール配信の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア WGメンバーの運営委員会参加による情報共有</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学想定区域(旧5学区中北部周辺、大東市、平野区北部等)中学校全校訪問 ・学校ニュースの作成5号以上 ・PTAメール登録数 10%増 (H27年度 210件) 	<p>(1) アイウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WG、準備会を設置し、高校再編整備課とも細やかに連携し準備を進めた。また、運営委員会や職員会議でも積極的な情報発信や作業依頼で理解・協力を努めた。(WG会議 27回実施) (○) ・デュアル実習・選択科目・エンパワタイムなど教科や準備会などで膨大な資料を作成し準備を進めた。 <p>(2) アイウ・中学校や中学生向け説明に多数出席し、校内においても5回の説明会及び説明会を実施し積極的に情報発信に努めた。(外部説明会参加者延 792名←540名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合わせてHPでの情報発信、説明会や訪問での学校ニュースや改編内容説明の資料を積極的に発信した。 ・HPにおいては、エンパワメントスクールについての特集を掲載し、学校説明会の参加申し込みも可能とした。 ・中学校訪問延 221校←107校 (◎) ・学校ニュース、改編情報資料発行 9種 (○) エ・HPやPTAメールを活用し緊急時等情報発信した(登録数 259件←210件) (○)